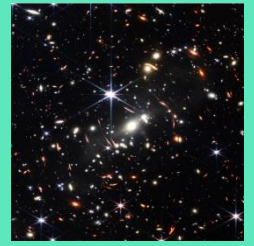




埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

今月のテーマ：キックオフ・Change 2022



2022-23 年度会長テーマ「地域と繋がろう・地域を知ろう・地域に知られよう」

- 関東東部部長 工藤大丈（東京ベイサイド） □ 東日本区理事 佐藤重良（甲府 21）
□ アジア地域会長 シェン・チ・ミン（台湾） □ 国際会長 K.C. サミュエル（インド）

会長 浅羽俊一郎 / 副会長 上松寛茂 / 書記 水無瀬隆造 / 会計 三浦雄二
直前会長 上松寛茂 / ブリテン 浅羽俊一郎 / 担当主事 小谷全人



会長の挨拶

浅羽俊一郎

会長 1 年目を無事終わることができました。メンバーの陰日向のサポートのおかげと感謝しています。活動の評価ですが、コロナ禍 2 年目ということで対面例会が実施できただけでなく、卓話例会や合同例会もしました。会長テーマ「地域と繋がろう・地域に知られよう」を実践しようと私自身さいたま市を学ぶつもりで市民活動に参加する機会を増やし、住民との繋がりも増えましたが、肝心のワイズの宣伝はイマイチでした。改めてワイズ広報はチームで取り組まねばならないと思います。

昨年度はベテランとチャーターメンバーの 2 人が退会しましたが、新たに会友が入ってくれました。当クラブでは会友は身内です。またブリテン発行が遅れているうちに 7 月例会で伊藤澄夫氏が入会してくれました。感謝したいです。

これからも個性をぶつけ合えるチームとして内に発酵し、外に発光するようなクラブでありたいです。

写真：頁右上はウェブ宇宙望遠鏡が捉えた地球から 7,600 光年の様子。下は見沼田んぼ。昨年までの荒畑（左）が稲田に生まれ変わった（右）。本格的な田んぼになるにはあと数年かかると聞いた。❖



今月の聖句

「聖書」はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。」

(テモテへの手紙 II 3:16)

私の心に触れた言葉

上松寛茂

信仰とは、静かにしていることである。み霊の訪れる足音に絶えずきき耳をたてるために...。信仰とは、淋しい場に退くことである。声なき声とか細い対話を交わすために。信仰とは、柔和で弱々しく見えることである。自分には厳しいが外に向かつては常に寛容で優しいために。(越谷 達之助)

越谷達之助先生は私の青山学院大学時代の関田寛雄先生と並ぶ生涯の恩師である。小学校教諭の免許取得のための音楽の授業でピアノ実技の手ほどきを受けた。石川啄木の短歌「砂山の砂に腹ばい、初恋の痛みを遠く思い出さぬ日」の作曲者であり、若いころは映画俳優、オペラの三浦環のピアノ伴奏者としても有名。NHK の名曲アルバムにもある。私の結婚式にはこの歌曲を披露してくれる約束が、結婚前に亡くなられ実現せず。前夜式にも出席した。先生のこの詩はだいぶ以前の読売新聞に掲載。

説明する必要のない心に触れた言葉である。

8 月「お盆明け」ズーム懇親会

日時：8 月 20 日(土)

午後 2 時～4 時頃

会場：それぞれの自宅 から参加

テーマ：さらにズームで楽しもう。

* URL をお忘れなく！

8 月「よる談会」例会

日時：同日(土) 午後 6 時から

会場：新都心駅西口「青蓮」

◆ 7月「KICK-OFF」例会 メモ

7月のブリテンが大幅に遅れたために、案内どころか、メモを載せることになってしまった。ブリテンに力を入れたい、と言って今期が始まったばかりなのに、メンバーの皆さんには大変申し訳ないです。

7月例会の会場は暑さを避けて新都心駅前のサイゼリア。上松、三浦、水無瀬、浅羽と会友の伊藤氏の5人。ブリテンの編集方針、ユースにどう取り組むか、などかなり議論が盛り上がった。さあ閉会というところで、伊藤氏がおもむろに再入会することを表明。充実した議論のあとの伊藤氏のこのグッドニュースに皆気分も爽快。キックオフに相応しい例会だった。(浅羽 記) ❖

◆ 6月「演説の日」例会 メモ

蒸し暑い日々が続く中、今期最終例会は会場を新都心駅近くのサイゼリアで開催。常連のほか元メンの伊藤澄夫氏が参加。はるばる岩槻から自転車で「き咲きてらす」を経由して新都心駅に無事到着。78歳とは思えない。

過去1年間の活動を振り返り、コロナ禍にあつて



結構頑張ったという話。また今期で退会したチャーターメンバーの小峰メンに感謝した。ユース活動である立大の学Y生との交流はコロナで途絶えていたが、評価の上で様々な意見が出、目的・方法をさらに議論することにした。水無瀬メンに加えて堀和会友も立大卒と知った。

サイゼリアは時間によっては混むと聞いていたが店の一角にまとまることができ、ドリンクバー付きで、話し合いも盛り上がり、おじんクラブとしての存在感出せた。店員さんがシャッター押してくれた。散会後まだ暑い中、自転車で車のわきをスイスイ縫っていく伊藤会友を見送った。(浅羽 記) ❖

◆ 7月「よる談会」

14日(木)のよる談会を青蓮で開催した。昨年末退会された小林道明メンが鴻巣から、岩槻からも伊藤澄夫元メンバーが参加。歓談の中、堀和会友からのアピールに応じて原爆記念日に彼が広島に届け



る千羽鶴をメン全員が一羽ずつ折って提供。簡単に折れると思いきや、意外と手順を忘れていた。堀和氏はこの活動を18年間続け、現地では毎回広島YMCAで被爆者の体験談を聞いていたそうだ。コロナ禍で中断し、3年ぶりの訪問となる。戻ったら話を聞きたい。

*その後堀和氏は予定通り無事千羽鶴を届けてきました。(浅羽 記) ❖

◆ 関東東部第1回評議会 メモ

7月23日(土)ズームで今期1回目の評議会が開催された。大澤和子直前部長(所沢)から工藤大丈新部長(東京ベイサイド)に引き継がれた。工藤部長の所属するベイサイドクラブは平均年齢も低く、彼らが新風を巻き起こすかもしれない。特記すべきは部長から要請のあった「関東東部に関する検討委員会発足」が部長・役員他を構成員に発足することが可決されたこと。どのような話し合いになるのか、楽しみである。

午前9:30に開会した評議会。トントン拍子に進め、11時過ぎには閉会点鐘が聞かれた。大事な日程は部大会が10月1日。部長の公式訪問はこれから調整して決まる。❖

◆ 「き咲きてらす」支援へ



浅羽メンが昨秋から浦和区木崎3丁目で始めた地域活動「き咲きてらす」を埼玉の3クラブは色々と支援してきたが、埼玉クラブとしては今後地域奉仕の一環として関わろうということになった。地域のニーズや課題を学びつつ、何が出来るか具体的なことはこれから話し合っていきたい。

近況を紹介したい。活動の中でも地道に続いているのが「歌声てらす」。コロナ禍で1年間休止した後、再開し今月が21回目となった。昼間の活動

なのでワイズに参加を呼びかけたら水無瀬メンと伊藤メンが参加してくれた。レギュラーの堀和メンと浅羽メンも加えると実に4人のワイズが出席することになる。休止中の「歌声集会」の常連の藤井夫妻、平山夫人も水無瀬、伊藤の両氏との再会を喜んでいた。今回選曲したフォークソング「グリーン・グリーン」や「オー・シャンゼリゼ」に挑戦。歌やクイズの合間に堀和メンの「広島に折り鶴を」プロジェクトに協力。意外と皆楽しんでた。



今回の顔ぶれだが、この手の会ではちょっと珍しく男女比が7対3。これぞ「七人の侍」と「かしまし3人娘」の素敵な出会いとなった。次回は9月。(浅羽 記) ❖

Members' Essays

リーダーがワイズメンになる道

衣笠輝夫

ユースにとってワイズメンズクラブとは何か、どう認識しているのか。ユースを支援しようとしているワイズには大きな質問と課題です。私は学生時代に東京YMCA中央ブランチ、目黒ブランチでボランティアリーダーを7年間していました。その間ワイズメンズクラブのことはまったく眼中になく、知りませんでした。現在活動するユースリーダーも一部を除いて、ほとんど関心がないといっても過言ではないと思います。ですからユースリーダーが来るのを待っているだけではだめで、こちらから企画して働きかける必要があります。ワイズから具体的に支援や協力を受けたユースリーダーは、これによってワイズメンズクラブの存在を認識し、後々になって感謝されます。私も社会人になってから、やっとこのワイズメンズクラブのありがたさを感じ、恩返しと思いワイズメンズクラブに入った次第です。❖

(今期ユース事業主任をされる衣笠メンにその思いを書いてもらいました。)



「日本の国際化」再考

浅羽俊一郎

8月2日にジュネーブ空港からタクシーで10分。拙いフランス語の単語(「まっすぐ」「右」「手前のビル」「ありがとう」など)を駆使してフランスの国境沿いのフェルネ・ボルテール村のアパートに無事到着。乾燥していて過ごしやすいが、聞くと今年には近年ない水不足。スイスの水力発電や酪農は深刻な事態に直面している。氷河も溶け続けている。

アパートには捨てられない書物も少からずあるが、中に上垣外憲一著「鎖国の比較文明論」(1994年)という妻の本を発見。かつて和辻哲郎「鎖国」や、大江健三郎「鎖国してはならない」を読んだことを思い出した。ぱらぱらめくると、徳川家康自身は開国派でキリシタン布教の脅威よりも西洋文化の摂取を優先していたとか、ヴォルテールがそれまでの日本の宗教間の寛容を当時のヨーロッパの不寛容に比べて高く評価したとか、中国のキリスト教取り締まりは江戸幕府のような弾圧でなく宣教師の国外追放程度だったことを知った。

そして今の国際社会の中の日本を思った。鎖国政策や戦時中の排外政策はもはや無いが、見えない影響が世代を超えて伝わり、個々人の心の深層に残滓となって溜まっていて、様々な形で私たちの思考や行動を縛っていないか。

戦後復興と高度成長後、OECDの一員として国を挙げて国際化を謳い、日本の文化や技術を対外的にアピールし、オリンピック誘致に狂奔する一方で、難民や技能実習生の人権に対して無関心でいられる。何故か。日本が実に諸外国に依存しないとやっつけていけないことは明白だ。私たちは知らずに鎖国メンタリティから抜け出していないかもしれない。

日本にいれば考えないこと、見えないことに気づかされるかもしれない。この由緒あるこの村で少し考えてみようと思う。❖

YMCA SPACE

◆ 浦和YMCAの小窓から

(※日頃活動を見ることのないワイズに普段着のYMCAを職員が紹介してくれる欄です。)

「名栗河川広場～川遊び～」

2022年7月24日飯能市の名栗河川広場に行ってきました。今回のプログラムはコロナ感染拡大の中



でありましたが、子どもたちの要望に応え、浦和センターと川越センターの合同プログラムとして行いました。

川遊びでは、生き物探しや水かけ

遊び、川温泉作りを行いました。

みんな川遊びに夢中で、帰る時間のお知らせをすると「もう帰るの？」と声があがるほど、あっという間の時間だったみたいです。

普段のプログラム中には見ることができない表情を見ることができ、子どもたちがいきいきと川遊びを楽しんでいました。



参加してくれたボランティアリーダーは、子どもたちの安全に配慮し、寄り添いながら活動してくれました。

保護者の方から「どこもお出かけができない中、YMCA が川遊びを実施してくれて、とても助かりました。」とのお声もいただきました。

これからも学校や学年などの色々な垣根を越えて、学びや交流ができるようサポートしていきたいです。
(川越 YMCA スタッフ 長谷川洋輔)

お便り



堀和メン 皆さま、この度は私の広島行きに対し、折り鶴を折っていただきありがとうございます。折り鶴って不思議ですね。お願いするとたいていは折っていただけます。たぶん何か良いことができたという満足感と折り鶴を通して祈りを込めることができる喜びが味わえるのかなと感じております。また広島の記事をさせていただきます。

浅羽メン 新年度開幕早々日本を抜け出しました。申し訳ありません。でも何か得るものがあるかもしれません。期待しててください。

羽 2022-23 年度 ユース事業案内

- 1) 第34回ユースボランティア・リーダーズ・フォーラム (YVLF) : 2022年9月30日 (金) ~10月2日 (日) 2泊3日で東京YMCA山中湖センターの予定。
- 2) 第18回インターナショナル・ユース・コンベンション2022 (IYC 2022) : 2022年9月4日 (日) ~9日 (金) タイのチェンマイで予定。
- 3) 第9回オープンフォーラム Y : 2023年5月 頃開催の予定

事務報告	出席	会員	ゲスト
6月例会	6人	4人	2人
7月夜談会	6人	3人	3人
7月例会	5人	4人	1人

Y's Men's FOTO Gallery

左上からオープンフォーラム 2016 集合写真、グループ協議、YVLF2014 集合写真
左下から AYC 2015、YVLF 2019 プログラム

